

「舞姫」というタイトルの意味

一 私が、舞姫というタイトルの意味についてレポートを書こうと思った理由は、「舞姫」というタイトルだけを見て、最初に思ったのは優雅で明るくお金持ちのイメージだった。しかし、読んでみると内容は悲しく生活にも困るほど貧乏な話であり、私がタイトル「舞姫」からイメージしたものとは全く違っていたので、なぜこのような内容と正反対の意味にとれるタイトルなのか疑問に思ったからである。

これからの論の進め方は、これから述べる二つの考え方からタイトルが舞姫である理由を考えていくこととする。まず一つ目は、舞姫は豊太郎をあらわすのではないかという考え方である。そして二つ目は、豊太郎は舞姫であるエリスにだけ心ひかれ、豊太郎はエリスという時間だけは、求めていた自由を手に入れられたことから、主人公豊太郎にとって舞姫エリスが特別な人物であったからタイトルとしたという考え方である。

このレポートで言いたいことは二つある。タイトルが舞姫である理由の一つ目は、人に従ってしか生きることができない主人公豊太郎を表しているという意味。二つ目は、舞姫であるエリスが豊太郎にとって特別な存在であり、エリスという存在にも注目して読むべきであるという意味である。

二 まず一つ目の、舞姫というタイトルは、主人公である豊太郎を表しているという考え方について。「余は父の遺言・・・機械的の人物」とあるように、豊太郎は母や官長に従いながら生きてきた。そして大学の自由な空気に当たり、それまでの生き方を嫌に思うようになる。そして、歴史や文学に心を寄せるようになり、エリスと出会うことで官長は豊太郎から離れ、母は死に、誰にも従わなくてよい“自由”を手に入れる。しかし自由を手に入れたと思っても自分の名誉回復や「余は、己が信じて・・・しばしばなり。」や「我が弱き心には・・・断たんと約しき」とあるように、信じた人に何か問われると咄嗟にそれを承知してしまう性格のせいで、再び相沢や大臣に従うようになってしまっている。つまり豊太郎は人に従ってしか生きられない性格の人物である。

また「されど詩人・・・辛苦いかにぞや。」とあるように、舞姫は奴隷のようなものであり、給料も少なくこき使われるような、人に従わざるをえない人生である。したがって、タイトル舞姫は人に従ってしか生きることができない人を表していて、それはまさに主人公豊太郎である。

次に二つ目の考え方の、豊太郎にとって舞姫であるエリスは特別な人物であったからという考え方について。ベルリンに来てすぐのころは、「たとえどな・・・心動かすまい」という誓いがありそれを守ってきた。しかしエリスと出会った瞬間「何故に一顧・・・徹し

たるか」とあるようにエリスには心を動かしてしまった。そこから豊太郎の人生は、楽しくも貧しい生活となっていった。「轆轤数奇・・・ければなり」とあるように彼の人生は不運で波乱に満ちていた。しかしエリスとの生活は、「こは足を縛して・・・にはあらずや。」とあるように豊太郎は求めていた自由を得ることができ、得意になっていた。その自由はエリスによって与えられたものだ。豊太郎が一番求めていた自由をほんの一時でも与えてくれたのが舞姫であるエリスであった。その自由も豊太郎自身の性格によって失うこととなってしまうが・・・つまり、舞姫をタイトルにしたのは他の人には心動かさなかった主人公が舞姫エリスにだけ心動かし、エリスは豊太郎が求めていた自由を与えることができた特別な人物であったからである。

三 以上二つの理由から、舞姫というタイトルにはただ舞をするものという意味だけでなく二つの意味があると考えられる。一つ目は、人に従ってしか生きることができない主人公豊太郎を表しているという意味。二つ目は、舞姫であるエリスが豊太郎にとって特別な存在であり、エリスに注目して読むべきであるという意味である。主人公豊太郎にはもちろん注目しながら読むだろうが、その主人公が求めていた自由を与えることができたエリスの存在の大切さにも注目すべきであることを伝えるためにタイトルを舞姫としたと考えられる。

未だ残る疑問点は、タイトルを舞姫とすることで森鷗外が何を伝えたかったか。舞姫が意味していることはこのレポートで考えられましたが、それで何を伝えたいかは、本文に根拠がみつけれなかったので未だに疑問である。